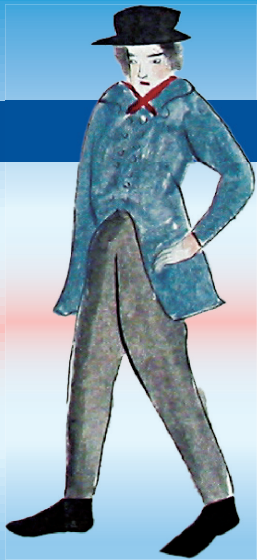


はこだて

善六来函210周年記念 1Dayツアー

通訳キセリョフ善六は なぜ函館に来たのか



善六
函館市中央図書館蔵
『北夷談 附図』より

2023年
10月7日(土)

参加費無料・申込不要

当日、会場に直接お越しください。
①～③は別会場で開催しますが、
通しでの参加も可能です。
(昼食は各自でおとりください)



「箱館沖之口ニテ応対ノ節魯西亞人備之図」(部分) 函館市中央図書館蔵『北夷談及び赤蝦夷図録』

「私は日本人ではありません」函館の埋もれた歴史を見る・聞く・歩く

文化10年(1813年)、文化露寇ゴロヴニン事件の解決に高田屋嘉兵衛が尽力したことはよく知られている。しかし、その日露交渉にはもう一人、“ロシア側”の通訳として函館にやってきた日本人がいた。その男の名は善六。故郷・石巻に帰る道を自ら閉ざし、ロシア人として生きることを選んだ男が函館に残した足跡を、史料・講演・史跡散策でたどる歴史探索ツアー。

見る

① 10:00-12:00

会場 市立函館博物館

◎函館市所蔵資料 特別観覧+展示解説

「善六の箱館上陸」

善六の姿が描かれた貴重史料「北夷談 附図」、
『北蝦夷及び赤蝦夷図録』を学芸員の解説付きで
観覧し、日露交渉や当時の函館の様子を探ります。



★会場で開催中の企画展「外国人が見たみなとまち
HAKODATE」の展示解説も行います。

聞く

② 14:00-15:40

会場 函館市地域交流まちづくりセンター
2階 多目的ホール

◎基調講演

「魯西亞から来た日本人 善六とはこだて」

大島 幹雄 (作家・石巻若宮丸漂流民の会事務局長)



善六とは何者か——仙台石巻(宮城県)から漂流して“ヲロシア人”となり、世界を一周し、通訳として函館に上陸した男の生き様をたどります。

◎ビデオ講演

「函館と石巻」

本間 英一 (石巻若宮丸漂流民の会理事)



善六のふるさと石巻と、ロシア人として上陸した函館——ふたつの港町をつなぐ数々のエピソードを紹介します。

歩く

③ 15:45-16:30

集合場所 函館市地域交流まちづくりセンター
1階 ロビー

◎善六の上陸地を歩く

「沖の口番所跡見学」

案内・解説: 倉田 有佳 (函館日口交流史研究会代表世話人)
奥野 進 (函館日口交流史研究会世話人)

善六が上陸した「沖の口番所」跡を散策し、
当時の絵図と現在の風景を見比べます。



★少雨決行

★荒天時はスライド上映でのバーチャルツアー

主催: 函館日口交流史研究会 / 石巻若宮丸漂流民の会 / 市立函館博物館

後援: 北海道新聞社 / 函館新聞社 / 三陸河北新報社(石巻かほく) / 石巻日日新聞 / 函館博物館友の会 / 日本・ウラジオストク協会

はこだて

善六来函210周年記念 1Dayツアー

通訳キセリョフ善六は なぜ函館に来たのか

2023年10月7日(土)

申込不要・会場に直接お越しください。

会場案内

① 市立函館博物館

函館市青柳町17番1号

函館市電「青柳町」電停から函館公園正面入口を通って徒歩7分

10:00-12:00

◎函館市所蔵資料特別観覧+展示解説

「善六の箱館上陸」

10:00から2階 集会室で観覧・解説(50分程度)を開始します。

開催中の企画展「外国人が見たみなとまち HAKODATE」(3階第2展示室)の
展示解説もいたします。

参加者多数の場合は、11:00から2回目を開催します。

★ 通常は企画展入館料が必要ですが、当日、イベント参加者は無料で入館できます。

企画展「外国人が見たみなとまち HAKODATE」



2023年6月27日(火)～10月15日(日) 午前9:00～午後5:00(入館は午後4:30まで)
企画展について、詳しくは市立函館博物館 企画展Webサイトへ:
<http://hakohaku.com/exhibition/minatomachi/>

② 函館市地域交流まちづくりセンター 2階 多目的ホール

函館市末広町4番19号

函館市電「十字街」電停から徒歩1分

14:00-15:40

◎基調講演

「魯西亜から来た日本人善六とはこだて」

◎ビデオ講演

「函館と石巻」

直接2階の多目的ホールにお越しください。

③ 函館市地域交流まちづくりセンター 1階 ロビー 集合

函館市末広町4番19号

函館市電「十字街」電停から徒歩1分

15:45-16:30

◎善六の上陸地を歩く

「沖の口番所跡見学」

15:45までにまちづくりセンター 1階ロビーにお集まりください。集合後、徒歩または
市電(「十字街」電停15:55発)で「沖の口番所」跡へ向かいます。

見学後は現地(市電「大町」停留所の近く)で解散します。

雨天でも実施しますが、荒天の場合は、まちづくりセンター内で「沖の口番所」跡を
スライド上映で解説します。



露寇事件とゴロヴニン事件

1804年9月ロシア皇帝からの贈呈品と国書をもって
通商交渉するため長崎に来航した遣日大使レザノフ
に対して、幕府は半年間閉閑状態にした上、通商
を拒否した。カムチャツカに戻ったレザノフは力ず
くで通商を認めさせるため日本襲撃を決意、命を受
けたフヴォストフとダヴィドフが樺太、クナシリ、エ
トロフを襲撃、番所を焼き、さらに日本人を捕虜とし
て連れ去る(露寇事件)。これを契機に日露間で緊張
が高まる。クナシリ島に上陸したロシア船ディアナ
号艦長ゴロヴニン以下8名が捕まり、箱館経由で松
前に連行監禁される。艦長奪還のため副艦長リコル
ドは日本船を襲撃、高田屋嘉兵衛をカムチャツカに
連行した。ここで嘉兵衛は露寇事件が、政府の命で
はなく個人の海賊行為だったという政府文書があれ
ば、ゴロヴニンたちは解放されると解決の糸口を示
す。リコルドもこの意見に耳を傾け、交渉がはじまる。
その最終的交渉の場が箱館沖の口だった。

キセリョフ善六

石巻生まれの善六は、24歳の冬(1793年)、米と材
木を江戸に運ぶ廻船若宮丸に水主として乗り組んだ
が、嵐で遭難。乗組員16人は太平洋を半年漂流した
あと、アリューシャン列島の一小島に漂着。ここで毛
皮狩猟基地をつくっていたロシア人に保護され、イル
クーツクへ連れて行かれる。乗組員のなかでいち早
くロシア語を修得した善六は、イルクーツク到着直
後ロシアに帰化し、キセリョフと名乗る。日本との通
商交渉のため若宮丸漂流民4名を伴い世界一周して
日本に向かう「ナジェージダ号」にレザノフの通訳
として乗船。航海中にはレザノフの露日辞書づくりに
協力した。長崎に向かう直前のカムチャツカで下
船。千島列島で漂流した南部藩慶祥丸や露寇事件で
捕虜となった五郎次郎の面倒を見たのち、リコルドに
請われてゴロヴニン解放交渉の通訳として、ディア
ナ号に乗り、箱館沖の口の上陸した。

【お問合せ】 zenroku.info@gmail.com

